

## 第3回徳島県復興指針検討委員会 議事録（要約版）

日時：平成30年12月26日（水）  
13時00分～15時40分

場所：徳島グランヴィリオホテル  
1階「ヴィリオルーム」

【出席委員】中林委員長、石本委員、伊原委員、井若委員、植本委員、金田委員、  
西條委員、定池委員、中野委員、細束委員、牧委員（テレビ会議出席）

### 1 開会

### 2 政策監あいさつ

### 3 議題

#### （1）「徳島県復興指針の構成（案）」について

資料1により事務局から説明

#### （2）「徳島県復興指針（たたき台）」について

資料2により事務局から説明

### 4 閉会（危機管理部長あいさつ）

## 第3回徳島県復興指針検討委員会での主な意見について

### 第1章について

- 基本理念「地域コミュニティの継続・再生」について、既にあるコミュニティの継続・再生だけでなく、新しくコミュニティを作るという視点も入れて欲しい。
- 基本理念「地域コミュニティの継続・再生」について、被災後は「育成」も重要になってくるので、順番はともかく「継続・再生・育成」の3つの語句を使用してはどうか。
- 「地域コミュニティ」について、新たに作るもの、既に失われかけているもの、希薄化しているものについての配慮が必要ではないか。
- 「地域コミュニティ」について、事後の育成、事前の育成（維持）の両面が大事では。
- 復興法に基づく「復興基本方針」について、作る作らないの整理をするよう国へ言ってもいいのでは。
- 「復興基本方針」について、大規模災害が発生した場合、国がいち早く出す方針という説明を一行入れてはどうか。
- 国の基本指針に基づいて、県が復興指針を出し、市町村がそれに即して復興計画を作るということも付け加えてはどうか。
- 「目的」の書きぶりについて、県民へのメッセージとして、復興指針があれば災害が起こった場合でも、総合計画に書かれているような徳島の明るい将来ビジョンを実現できるので、オール徳島で皆でポジティブに事前復興に取り組みませんか、という書き方にしてはどうか。

- 基本理念「自助共助公助の連携」について、「協働や総働」して実現していこうというような言葉を入れてはどうか。
- 基本理念「地域コミュニティの継続・再生」について、死者ゼロを実現し、避難所や仮設住宅もコミュニティ単位を守り、復興の際は次世代のことも考えて地域を継承していくという視点を加えて欲しい。
- 基本理念「地方創生の視点を持った創造的復興の事前準備」について、震災復興都市計画指針にあるバックキャストの考え方も含めて欲しい。
- 「新未来『創造』とくしま行動計画」との関係について、今後も改定されるであろう将来ビジョンを目標として、被災後には復興ビジョンを検討するということを盛り込むべきでは。
- 「新未来『創造』とくしま行動計画」との関係について、事前にビジョン（行動計画）に基づいた地域づくりを事前復興として推進しますということ盛り込むべきでは。
- 「目的」について、合意形成ではなく、巨大災害だからこそその課題を挙げた方がいいのでは。復興の遅れをもう少し具体的に意識して書いてはどうか。
- 基本理念「自助共助公助の連携」について、「自助のサポート」や、「自助、共助、公助も互いに被災しながら共に連携し復興に向かっていく」という意気込みを書くべきでは。
- 基本理念「地域コミュニティの継続・再生」について、「～とされています。」と人ごとのような、東北の復興が終わったような書き方になっているので配慮して欲しい。
- 基本理念「地方創生の視点を持った創造的復興の事前準備」について、少子高齢化・過疎化は社会の傾向であり課題ではない。人口減少による担い手不足などが課題だと思うので、社会の傾向と課題をかき分けて欲しい。
- 基本理念「自助共助公助の連携」について、人材の育成とか教育、自助共助公助をうまく連携させるような環境の醸成という視点がどこかに必要ではないか。
- 被災しない地域（中山間地域）をバックアップ地域として、中山間地域の活性化も復興の条件となるのでそういう視点も入れてはどうか。
- 基本理念「地方創生の視点を持った創造的復興の事前準備」について、「社会基盤」はハード的ところがクローズアップされるので、「社会システム」にした方が幅が広がるので、こちらがいいのではないか。
- 基本理念「自助・共助・公助の連携」について、被災を受けているところと被災を受けていないところの助け合うという視点が重要になってくるので検討して欲しい。
- 各地域での事前復興の取組を地区防災計画に位置づけることで、県・市町村が地域防災計画を見直す機会ともなるため、地区防災計画の件は、もう少し強調してもいいのでは。

## 第2章について

- 第2章「4 事前復興のプロセス」のタイトルについて、「4 事前復興の推進」の方が紛らわしくないのでは。
- 「図5」について、共助が自助を助けてくれるというよりも、お互いに助け合いましょうということを示すと、両矢印がいいのではないか。
- 「図5」について、外部支援者と県などが同じ枠は分かりにくい。医療・福祉事業者とあるが外部支援者にもDWA Tなど県外からの支援機関もあるので検討して欲しい。
- 「図5」について、復興の主体と外部支援はもう少し区分けした方がいいのでは。外部からは「入ってくる矢印」だけでいいのでは。
- 「外部支援者との連携」について、ボランティアセンターと専門職をどのようにつなぐのか。平成30年7月豪雨で、広島県、社会福祉協議会、士業団体が協定を結び、専門家の派遣事業をはじめた事例紹介を基に指針に取り込んでいく。

- 「外部支援者との連携」について、事前に協定を締結することや、事前に仕組みを考えておくことは事前復興として大事だと思う。
- 士業の専門家を県外からもひっぱりってくるという意味で、士業団体とも協定を結ぶことは大事だと思う。
- 「復興の主体と役割」について、NPO法人は行政と協働で復興の役割を担うことができるので、指針のどこかに（図だけでなく）入れてはどうか。
- 「準備する事前復興」について、被災イメージの共有だけでなく、住民参画の取組のように、県民に対し普段からの啓発・教育し、計画策定などに参加していくことを知ってもらうことが必要である。
- 「実践する事前復興」について、訓練だけでなく、復興への参画に関する教育・啓発などの取組を加えてはどうか。
- 「図5」について、緑（県内の支援者）と青（県外からの支援者）の間に、事前からの協力・連携が大事というのが入ればいいのでは。
- 「準備する事前復興」について、被害だけでなく地域の生活や営みへの影響というのも考えましょうという書き込みがいいのではないかな。
- 都市計画などといっしょに考えていく中で、準備と実践する事前復興に対する国交省の復興イメトレにおける復興準備と防災計画の前倒しのように、他のものとの関係性を整理しておくべきでは。
- 「復興の主体（地域コミュニティ）」について、「復興対策に協力するよう努める」とあるが、他人任せな印象を受けるので、自助共助が中心になるような表現にしてはどうか。
- 「復興の主体（医療・福祉、県、市町村）」について、事業者と比較すると事業継続の重要度が高いため、もう少し強く記載してはどうか。
- 「図5」について、県、市町村は緑枠とし、関西広域連合などを青枠で加えてはどうか。
- 復興の主体（県民）において、まず命を落とさないため耐震化を行い、生き延びるために備蓄を行うという流れにしてはどうか。
- 復興の主体（地域コミュニティ）について、自分たちでいろいろと取り組むことにより、自治が回復し、主体的に取り組むことができるので、その旨を加えてはどうか。
- 「外部支援者との連携」について、熊本地震以降、JVOAD（全国ボランティア支援団体ネットワーク）中心の連携会議が開催されていることから、その開催を前提としてどのように地元に参加してもらうのかということを加えてはどうか。
- 社会福祉協議会は復興のフェーズとなると地域福祉の役割も出てくるので、他の組織も含めて、時間的な広がりをもっと加えて記載してはどうか。
- 支援団体との関係構築について、支援団体は災害に限らないということを付け加えると平時の関係構築ということがより強化できるのでは。
- 「復興の主体（県民、地域コミュニティ）」について、平時からのまちづくりへの参加を付け加えてはどうか。
- 「復興の主体（医療・福祉）」について、医療・福祉に係る事業者・団体は、住民や利用者への安心が提供できるよう、通常サービスや事業の拡充部分に触れていただきたい。
- 「ボランティア」に関しては、様々な活動があるが、無償、有償ではなく、ボランティアによる支援と業ということで整理をしてはどうか。また、財源確保も付け加えてはどうか。
- 「復興のプロセス」に「創造的復興」や「より良い復興」のことを付け加えてはどうか。
- 事業継続計画（BCP）のほか地域継続（DCP）を盛り込んではどうか。
- 「図5」について、主体間の連携の担い手として、NPO、災害に応じて立ち上がる会議体や機構、大学などの中間支援やコーディネーターとしての役割を主体に加えてはどうか。
- 「実践する事前復興」について、関係者間の議論だけでなく、地域で大事なものの、魅力、守

りたいもの、そして復興像について合意し、それを記録として書き物に残しておくことで、迅速な復興につながるのを加えてはどうか。

### 第3、4章について

- 3、4章の「様式」について、市町村がやるべきことというのをイメージできるように、事業者がやるべきことは別として、市町村がやるべきことぐらいは、明記した方がいいのでは。
- 「主体と時間軸表」について、主体は、主たるのは県ですとか、主たるのは市ですとか、全く同格ですとかというような印にしてはどうか。
- 「様式」の各取組項目（業務）について、どこが責任部署かということを明確にしておくべきでは。
- 「地域社会の再生」について、元からある地域社会だけでなく、新しく地域社会を作ることも含めるべき。
- 「災害記憶（遺産）の継承」「地域の伝統文化の継承」について、継承前の段階の「保存」を見出しだけでも入れてはどうか。
- 「地域社会の再生」について、継承・再生・育成とするのがいいのでは。
- 「安全・安心な地域づくり」のところで、「都市基盤」や「公共施設」の言葉の使い方を明確にしてはどうか。
- 「都市基盤施設」より「社会基盤施設」の方がいいのではないか。
- 「安全・安心な地域づくり」について、基本理念に「地域コミュニティの継承・再生」とあるので「(4) 地域社会の再生」を1番最初にしてはどうか。
- 「(4) 地域社会の再生」について、1番に「地域防災力の充実・強化」があって、次に「地域コミュニティの再生」、地域の伝統文化、文化財、災害記憶の継承の順がいいのでは。
- 「災害記憶の継承」の「災害記録誌の作成」について、保存することやアーカイブを残す視点を入れてはどうか。災害遺構物をどうするかという視点も必要になる。
- 「地域コミュニティの再生」について、既存のコミュニティ、仮設住宅や避難所のできる一時的なコミュニティ、復興期にできる復興公営住宅、復興団地のできる新しくできるコミュニティのかき分けと、再生なのか育成なのかの区分が必要ではないか。
- 「地域防災力の充実・強化」について、事前にするのか、復興期の地域防災力とするのか。被災した地域と被災しなかった地域等における自主防災組織の結成、育成についても付け加えてはどうか。
- 復興期の学校教育は、事前の防災教育とは違うと感ずるので、その内容のイメージを盛り込んでおくべきでは。
- 被災後には、心のサポート授業などの教育活動を行っていくことを盛り込んでどうか。
- 「地域防災力の充実・強化」について、地域防災力という言葉より地域対応力の方が幅が広くていいのではないか。
- 「暮らしの再建」や「安全・安心な地域づくり」の項目は、「スマート社会的」な視点で何か共通項ができるのではないか。

### その他

- 県行動計画にも指針が反映されればいいと思う。
- 具体的なものがなく助け合いましょうと呼びかけるよりは、指針として同じ地域内の人間がどう動くか教えて欲しいと思う。
- 被災後の各フェーズで、どのように支え合うのかを検討して欲しい。

- 指針策定後の次のステップについて、BCP 的発想とタイムライン的発想をもって、最終的に準備する事前復興の成果として、各所管が指針に従ってマニュアル作成などを第5章として盛り込めればいいのでは。
- 上記を前提に、復興マニュアルも地域防災計画の復旧復興編に位置づけていくべきでは。
- 地域社会（事業所、組織）も災害後の事業が継続できるようBCPをしっかりと作ることを、指針の事前復興の取り組みとして後押ししていくようにすべきでは。
- 地域の被災後の復旧復興をどうしていくのか、コミュニティの維持継続をどうしていくのか、を事前に地域で議論して、地区防災計画にまとめるべきでは。
- 各市町村に復興指針又はマニュアルを作って頂く、計画的なものを示して欲しい。